平成２５年度大磯町行政評価について

平成２６年度以降も継続して実施する事業について、学識経験者などで構成された大磯町行政評価委員会を一般公開の場で行います。評価委員会では、事業の目的、効果、課題などについて議論します。その評価結果につきましては、予算編成の判断材料とします。

行政評価の目的

①検証と改善に基づく行財政運営

事業の目的や目標を可能な限り数値化し、その達成状況等を可能な限り客観的に測定・評価（検証）することにより、適切な事業手法の選択や、資源（人材、物、財源など）の効果的な再配分、コストダウンへの取組みなどを「PDCA マネジメントサイクル※1」により継続的に行います。

②透明性の高い行財政運営

事業の目的や達成目標、評価結果を公表することにより、行政の説明責任を果たすとともに、大磯町自治基本条例の基本原則の一つである「情報の共有」の実現を目指します。また、行政の透明性や信頼性、行政と町民との相互共通理解を高めます。

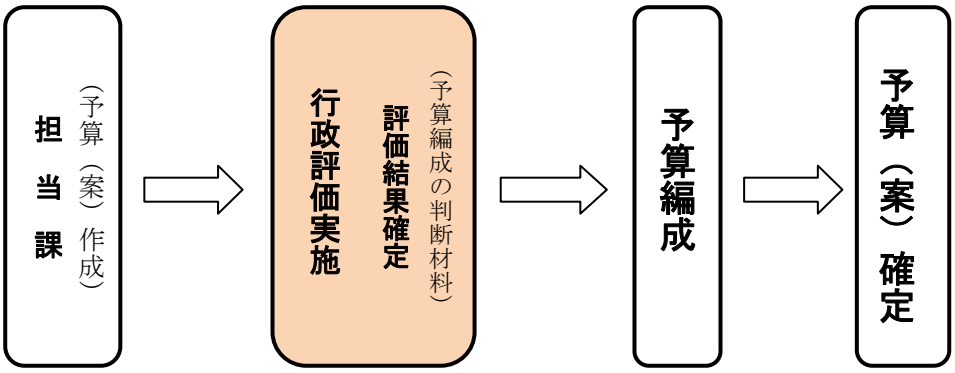
③職員の意識改革

事業の見直し、評価を通して、職員が事業の成果やコストに対する意識を持つとともに、常に町民目線に立って考えるよう、意識改革を促します。また、これからの行政運営に求められる政策形成能力やプレゼンテーション能力などを高めていきます。

④町民の町政への参画

有識者や町民目線での評価を行う「外部評価」を導入することで、評価の客観性を高めるとともに、町民の町政への参画の機会の拡大を図ります。

◎予算編成までの流れ



平成２５年度大磯町行政評価について

行政評価の手順（流れ）

１事業につき５５分で評価を行います。次のとおりの流れで実施します。

担当課による事業説明（１０分）

事業所管課の職員が、「行政評価シート」及びパワーポイント資料に基づき、事業の目的、内容、課題などの考え方について説明します。

質疑応答・議論（３０分）

評価を導き出すための判断材料として、評価委員及び公募町民が事業所管課と質疑応答を行い、議論します。

評価結果決定（１５分）

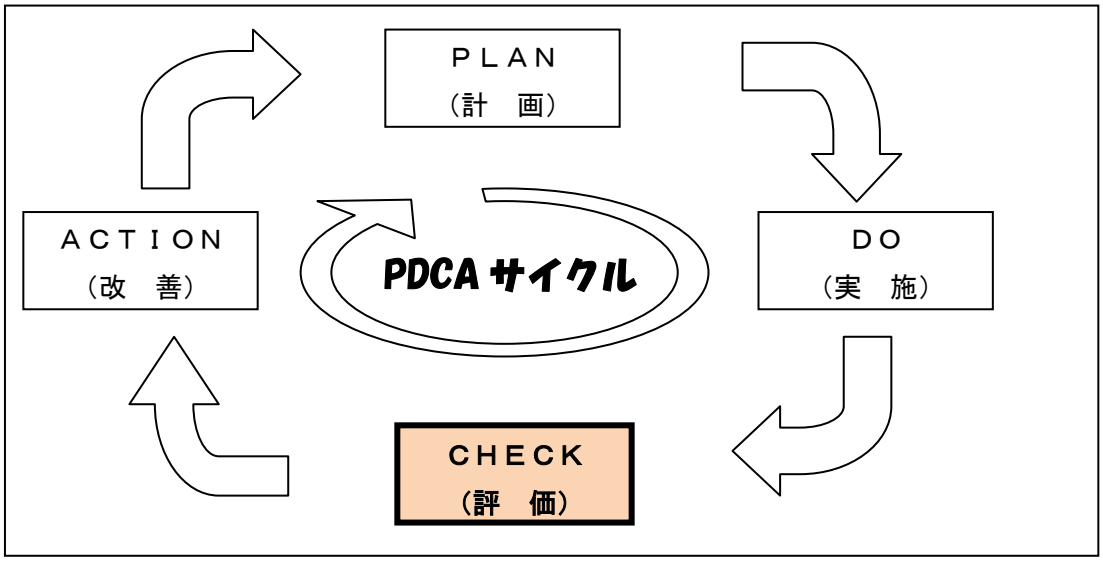
評価委員が担当課による事業説明、質疑応答・議論を参考にして評価結果を決定し、その評価に対する意見等を付して事業所管課に示します。

行政評価結果は町の最終判断ではありません。評価結果を参考に、各事業の今後のあり方を検証して見直しの方向性を定め、予算編成の判断材料とします。

※1　PDCA マネジメントサイクル

事業活動における管理業務を円滑に進める手法の一つ。まず、①PLAN：目標を設定し、それを具体的な行動計画に落とし込む。　②DO：具体的な行動を実施する。　③CHECK：成果を測定・評価する。　④ACTION：必要に応じて改善を加える。この一連のサイクルが終わったら、反省点を踏まえて再計画へのプロセスに入り、次期も新たな PDCA サイクルを進める。

ＰＤＣＡマネジメントサイクル（図）



※PDCA：Plan(計画)、Do(実施)、Check(評価)、Action(改善)それぞれの頭文